

「気づかずに」
ルカ 2 : 40-52

神田 明美

(導入)

みなさん、おはようございます。今日予定されていた親子礼拝は延期となりましたが、今日はみなさんと、幼い頃のイエス様とマリアとヨセフの親子を一緒に見ていきたいと思うんです。今日の箇所は、イエス様がいないことに気づいたマリアとヨセフが探しにいきイエス様を見つける話です。

・マリアとヨセフ

マリアとヨセフもこんなうっかりしてしまうことがあったんですね。皆さんはマリアとヨセフはどんな親だったと新約聖書を読みながら頭に思い浮かべますか？ルカが2章の至る所で2人がどんな親だったか教えてくれるので見て見ましょう。

ルカ 2 : 21 八日が満ちて幼子に割礼を施す日となり

ルカ 2 : 22 モーセの律法による彼らのきよめの期間が満ちた時

ルカ 2 : 23 主の律法に書いてあるとおり、幼子を主に献げるため

ルカ 2 : 24 主の律法に言われていることにしたがって、いけにえを献げるため

ルカ 2 : 27 律法の慣習を守るために

ルカ 2 : 39 両親は、主の律法にしたがってすべてのことを成し遂げた

ルカは、2章で2人が律法に忠実・従順で献身的な様子、礼拝を大切する2人の様子をこれでもかと言っています。2人が模範となる信仰生活を歩んでいた敬虔なクリスチャンであったことがわかります。今日皆さんと見ていく箇所は、この信仰熱心なマリアとヨセフが、知恵に満ちてたくましく成長した12歳になったイエス様を連れてエルサレムに行く話へと繋がっていく場面です。この箇所でルカが私たちに注目してもらいたいと思っていることは一体なんなのでしょうか？ともに見ていきましょう。

では、今日の聖書箇所をお読みします。新約聖書、**ルカの福音書 2 : 40—52**です。
では、お読みします。

(本論)

・ルカの強調してること

ルカだけが、なんとイエス様が12歳の時のことを書いています。皆さんはこの箇所をどう読めますか？ルカは、ただ単に他の著者が書いてないから自分だけでもイエス様の幼かった頃の話を書いておくか、といってこの出来事を書き残したのでしょうか？

ルカは、イエス様が幼かったときはこうだった、という単なる情報としてではなく、この出来事が読むクリスチャン、私たちにとってとても大切な意味を持っていたから書き残したと思うんです。なぜなら、この箇所ではルカは、両親2人とイエス様を対照的に書いているからです。子供に期待している両親、そしてその期待とは違う方へいくイエス様。そして、イエス様の言葉を理解できなかった両親と、自分のなすべき事、使命を理解しているイエスというようにです。

この場面は、30歳になってからではなく、すでに12歳の時からイエス様はマリアとヨセフとは次元の違う、父なる神様、そして自分がこの世にきた使命、神様が自分をこの地に送った目的に集中し始めておられたことを、ルカは両親とイエス様を対照的に書きながら強調しています。そして、マリアとヨセフ、そしてイエス様の見ているものにズレができています。では、詳しく見ていきましょう。

・過越の祭りへ

41節-42節をご覧ください。

41節に「毎年行っていた」、42節に「慣習にならって」とあるように、今回もこれまで通り、過越の祭りに参加するためにエルサレムへ向かいます。イエス様がこれまでも両親と一緒にエルサレムへ行ったかどうかは書かれてませんが、この当時は家族だけでなく、44節に親族・知人もとあるように、大人数で移動していたとのことだったので、イエス様も幼い頃からみんなでエルサレムへ行っていたのではないかなと想像します。

そしてハプニングがここから起こってしまいます。43-45節。

祭りの期間、過越の祭りは今でも七日間祝われるそうですが、この時もマリアとヨセフは一週間エルサレムで過ごしてからナザレに帰ろうとします。祭りの全ての期間に参加するということも2人の律法への敬虔さを表しているなと思います。でもその時にイエス様を見失ってってしまうんです。

過越の祭りは、出エジプトのとき、主が自分たちの先祖を奴隷の家エジプトから救い出してくださったことを覚え祝う祭りです。初子を打つ者が子羊の血をかもいと門柱に塗った家の前を過ぎ越されたのが祭りの由来です。イスラエルの初子の代わりに死んだ子羊を覚える日。バプテスマのヨハネがイエス様にあったとき、「見よ、世の罪を取り除く神の子羊」と言いますが、過越の祭りの主人公は誰ですか？イエス様ですよね？そのイエス・キリストを、マリアとヨセフはその祭りを祝いにきた後見失ってしまうんです。

43節にイエス様はエルサレムにとどまっていたのに、両親はそれに気づきませんでした。そして、その理由をルカは44節で、「イエスが一行の中にいるものと思って」と書いています。先ほども、この当時は親族や知人といった大人数、キャラバンで移動するとお伝えしました。そして、前の方を女性たち、後ろの方を男性たち、子供たちは好きな方に

ついていって移動していたそうです。アフリカのことわざにも「一人の子供を育てるには一つの村がいる」というのがありますが、この当時のイスラエルもそうだったわけです。

・私のエピソード

私の幼い頃の話ですが、スーパーなどに母と行って、母の目から少しでも私が見えなくなるともう大変です。私の母はすかさず大きな声で私の下の名前を叫び始めるんです。なので、母から離れたら私が恥ずかしいことになるので、母に黙って離れるようなことはしたらいけないということを学びました。このようにマリアやイエス様も、家族だけや少人数だけでいってたら見失うことはなかったでしょう。

でも大人数だと十分に起こりうることなんです。これは4-5年前ぐらいのことだと思うのですが、めぐみ教会の青年たちと近隣の教会の青年たちと1日の修養会かなんかの集まりで、礼拝後に近くのBBQ場に行くことがありました。礼拝が終わり、みんなそれぞれバスや車に乗り出発する前に、私は礼拝堂に忘れ物や残ってる人がいないかチェックしに行ったんですね。そして、チェックし終わって私もバスに乗ろうとしたら、なんと…目の前で乗るはずのバスが出発してしまってたんです。

走って行っても間に合わないところまでバスは行ってしまっていました。私は驚いてその場に呆然としてしまいました。そして、電話して戻ってきてもらうにもバスだし、大変だし、時間遅くなるしと色々悩み、歩いていける距離だったので、歩いていったことがあります。その時は、バスの座席など決まっていなかったので、私が置いてかれた理由もまさしく、どこかに私は乗っているとみんなが思っていたというものだったんです。

マリアたちはこの時の青年たちよりももっと大人数で移動していたのではないかと思います。なので、マリアはイエスがヨセフたちだと思います、ヨセフもイエスはマリアといるだろうとそれぞれ思ったまま、いないことに気づかずに1日の道のりを進んでしまいました。

イエス様がいないことに気づいたマリアとヨセフはどれくらいでイエス様を見つけるのでしょうか？

46節 そして三日後になって、イエスが宮で教師たちの真ん中に座って、話を聞いたり質問したりしておられるのを見つけた。

三日後でした。なぜ3日もかかったのでしょうか？皆さんは家族とはぐれたらどのような場所を探しますか？その人の行きそうな場所をまず探しませんか？なので探すためには、その人を、その人が考えそうなことや行きそうな場所など普段からの様子を知っている必要がありますよね。

・イエス様を本当の意味で知らない両親

ということは、マリアとヨセフはイエス様のことを12年間一緒に暮らしてきたけど、よく分かっていなかった。つまり、人としての、我が子としてのイエスについては知っていたけど、神の子としてのイエス、イエス様が誕生するときに御使いが言っていたことを忘れてしまっていたのかもしれませんが。なので、我が子イエスの行きそうなところを探し周り、探すのみ三日もかかってしまったわけです。

御使いはマリアとヨセフに受胎告知でなんと言ったのでしょうか？ルカ 1：31-33、また 35 節。マタイ 1：21。2 人はイエス様と 12 年生きてきました。その中でイエス様が普通の子たちと同じように成長していくので、段々とイエス様が聖霊によって宿り生まれ、大いなるもの、いと高き神の子、聖なる者、民たちを罪から救う方であることを忘れていったのではないのでしょうか？

でも逆にイエス様は歳をとるごとに、「知恵に満ち神の恵がその上にあった」(40 節) とあるように、自分の使命を理解し、父なる神様とその目的に集中していきました。その知恵と答えは、47 節-48 節にあるように、そこにいた教師たち、人たち、そしてマリアとヨセフまでも驚くほどのもの。その内容の詳細は書かれてないのでわかりませんが、12 歳とは思えないものだったのは間違いなかったでしょう。そして、いた場所も宮、イエス様の言った言葉でいうなら、「父の家」です。

ルカはイエス様と両親たちの間に生まれていった差、別々のところを向いてしまっていることに私たちの目を向けさせます。マリアとヨセフにとってイエス様はまだまだ 12 歳の、自分たちの守りの必要な子供でした。しかし、イエス様は 2 人にとっても子である以前に、いと高き神の子、聖なる者、民たちを罪から救う方だったんです。

・私たちにとってキリストは一体誰か？

ルカはこの箇所から、私たちにも「キリストがあなたにとって一体誰か？」と、イエス様が向かわれているところに、私たちもしっかり向かっているかと聞いているように思います。

私たちは、イエス様が私にとって、いと高き神の子、聖なる者、私を罪から救う方であることを見失わずに歩めているのでしょうか？それを見失うとき、私たちもマリアとヨセフのように、イエス様がおられないところばかり探してしまい、三日どころかもっと時間がかってしまうかもしれません。

でも、イエス様を知っていればすぐに見つけられます。父なる神様の家、教会はもちろん、脚注には「父の者たちの間に」とあります。マタイ 18：20 に「二人か三人が私の名において集まっているところには、わたしもその中にいるのです。」とイエス様が言われ

ましたが、クリスチャンが集まるところにイエス様も同然いて、「父のみわざのうちに」ともありますが、神様が働かれているところには当然イエス様もいらっしゃると分かるからです。なので、私たちがイエス様を中々見つけられない時があるなら、それは私たちの頑張り・努力が足りないのではなく、探す場所を間違っているということです。

・イエス様のいるところ

私たちがイエス様を探すためにいくべき場所は、イエス様がいるところ。父なる神を礼拝し、父なる神様と祈りで会話するところ。父なる神のことばであるみことばを聞くところ。マリアとヨセフのようにイエス様のところまで戻る必要があります。黙示録 2：3-5 ではこう言われています。「あなたはよく忍耐して、わたしの名のために耐え忍び、疲れ果てなかった。けれども、あなたは責めるべきことがある。あなたは初めの愛から離れてしまった。だから、どこから落ちたのか思い起こし、悔い改めて初めの行いをしなさい。」と。

私たちは日々、イエス様と同じ方向に、父なる神様に向かって歩んでいるか確かめる必要があります。すぐ初めの愛から離れやすい者だからです。そのことをマリアとヨセフが教えてくれました。そして、離れていると気づいたら、急いでイエス様を探しに戻っていくことの大切さを教えてくれます。

またイエス様は私たちに私たちが留まるべき場所を教えてください。それは、イエス様が父なる神様にとどまったように、私たちも留まるべきはイエス様、みことば。そして、なすべきことは、イエス様がされたように私たちもイエス様に集中し、与えられている使命に生きることではないでしょうか。まさに字の如く神様から罪赦され与えられた新しいいのちを神様のために使う生き方です。「この方にはいのちがあつた」とヨハネは言いますが、使命に生きるのに欠かせないいのちが、この方、イエス・キリストにあります。私たちの向かうべきところが見えてきませんか？

最後にイエス様がどのような時代の時にこられたのか、私たちの生きている今もどんな時代だとルカが警告しているのかを見たいと思います。

ルカ 2：52 を見てください。「イエスは神と人とにいつくしまれ、知恵がまし加わり、背たけも伸びていった。」その脚注に I サムエル記 2：26 と書かれているのが見えますか？サムエルの成長の時とほとんど同じ言葉を用いてルカは、イエス様の成長を書いているんです。リンクさせているわけです。ユダヤ人たちは旧約聖書がベースにしっかりあるので、ルカ 2：52 を聞いて、サムエルを同時に思い浮かべるわけです。

・サムエルとのリンク

では、サムエルが生きた時代は士師の時代です。この時代は**士師記 21：25**にあるように、王がなく、神様ではなくそれぞれが自分を基準にして、自分が良いと思うことをしていた時代でした。また**Iサムエル記 3：1**にあるように、みことばの不在、またみことばへの無知がはびこっていた時代でした。そして、サムエルのお父さんはエルカナという人で、レビ族で祭司で賛美に関わる人だったのに、そんな祭司にも妻が二人いるような、それを他の人もなんとも思わない時代がサムエルが生まれ育った時代でした。祭司すらみことばから外れた生活をしているので、民たちはもっとですよ。

そんな、神を知らず、みことばに無知で、みことばから大きく外れた時代に、神様はサムエルを預言者として立て、みことばを語らせ、この時代に、みことばのない世界で罪に落ちていくイスラエルを、神のみことばによってもう一度回復させるという目的でサムエルを神様は誕生させました。サムエルが神様に呼ばれたときも 12 歳だったと言われています。

このサムエルとイエス様をルカはリンクさせてます。イエス様も今日の箇所です 12 歳で使命を確信し、告白されましたが、同時にイエス様がこられた時の時代も、依然としてサムエルの時と変わっていない、何よりもクリスチャンたちが神を知らず、みことばに無知でみことばから大きく外れていると、そして、私たちの生きてるこの時代はどうかと警告しているように思えてなりません。**ヨハネ 1：10-11**にもこうあります。「この方はもともと世におられ、世はこの方によって造られたのに、世はこの方を知らなかった。この方はご自分のところに來られたのに、ご自分の民はこの方を受け入れなかった。」

私たちはどうでしょうか？自分のところに來られたイエス・キリスト、いと高き神の子、聖なる者、私を罪から救う方を知り、心から受け入れられているのでしょうか？初めの愛にとどまっていますか？そこから離れてしまっているなら急いでイエス様のところへ戻っていきましょう。

祈ります。